松陵

能代高等学校同窓会
事務局
能代高校内
能代市高塙2-1
TEL 0185-54-2230
題字は神馬会長

同窓会員の皆様へ

同窓会長　神馬恒成　旧制九期

初冬の候、同窓会員の皆様には益々ご清栄のこととお喜び申しあげます。

昨年は硬式野球部が甲子園出場、そして軟式野球部が明石大会へと出場しまして、全国の同窓生に両手に花の大きな喜びを与えてくれましたが、今年は残念ながら一休みというところで、他の各部共に捲土重来を期して練習に励んでいるところです。

平成二年度より三年間「文武両道」の校是のもと、いかんなく成果を挙げてくだされた椎名光雄校長が秋田高校長に栄転し、この春に第二十八代校長として小野寺清先生を教育庁より迎えました。先生は実力を備えた全県一若い県立学校長でありまして、その若さとバイタリティに期待するところ大なるものがあり、新校長のご指導のもと、私たち同窓生も新しい気持で母校の発展に尽力したいと思っております。

今年もまた、鷹巣・阿仁支部、県庁能高会、八竜支部、秋田支部、東京同窓会と開かれ、ご案内を受けて学校当局と共に参加し、母校を思う会員の熱情にいつもながら深く胸を打たれました。

平成七年は母校の創立七十周年を迎えます。この会報の中にも協力募金や、同窓会員名簿のお願いが含まれ、また掲載されていますが、五十周年募金は昭和四十七年より、六十周年募金は昭和五十八年よりとそれぞれ数年前から始めました。また六十周年の折には「七十周年を期して」という約束で、それほど大きな協力を母校に対して果たしませんでしたので、何とぞ七十周年記念事業募金には同窓生の皆様の格段のご協力を賜りたく深くお願いする次第であります。

創立七十周年に向けて

学校長　小野寺　清

朝夕の寒さが肌にしみるようになり、間もなく厳しい冬の到来を感じさせるこの頃です。全県一を誇る約九万六千平米の校地周辺は、黒松に囲まれて緑豊かな落ち着きを示しております。昭和四十九年十一月に新校舎に移転してから二十年、荒涼とした校地の環境整備を着々と進めてくださった先輩各位の叡知に感じ入る次第です。

さて、昨年は十四年振りの甲子園出場、六年振りの明石大会出場を果たし、能代高校の名を全国に高めたところでありました。その折、同窓生の皆様の献身的な御支援、御協力をいただき、厚く御礼を申し上げます。

本校は秋田県で十九番目に設置された高校でありますが、これまでも文武両面において県内各校の先陣をきってまいりましたその伝統を、教職員・生徒一同がしっかりとかみしめ引き継いでゆく責任を強く感じております。

過日、再来年の七十周年に向けて、同窓会・PTA・学校が一体となった実行委員会が発足いたしました。今後は三者一体となり古希を迎える学校にふさわしい記念事業を進める事ができればと期待いたしております。

特に七十周年を機に、火災や移転等で失った資料の収集に力を入れたいと思います。また、各分野で御活躍中の先輩の方々に在校生に対する講演等をお願いし、人間としての在り方・生き方をお話しいただくことも、将来を担う人材の育成に大きな意義があるものと思います。

高度成長の時代が終焉し、心の豊かさが求められる時代に移行しつつある現在、同窓生の皆様一人一人の生き方が在校生にとって大切な教材になりますので、今後、これまでとは若干違った形での御協力を切にお願い申し上げます。

記念事業予算(案)成立

平成五年度同窓会総会報告

佐々木満先生を囲んで

今年度の同窓会総会（平成五年九月二十五日）は佐々木満先生を始め多数の来賓の参加の下に盛大に開催されました（参加者九十四名）。会議では事務局より平成七年九月に実施予定の「七十周年記念事業」の予算（案）が提案され、満場一致で可決成立しました。

総事業費約七千二百万円のうち二千六百万円を同窓会の皆様にお願いすることになりました。

主な記念事業のうち「前庭整備」は平成四年度にほぼ完成いたしましたが、今後は「七十周年記念誌」の発行「文化講演会」「各部招待試合」等の準備に取りかかることになります。

更に記念事業を意義あるものにするために各期幹事の中から十名の実行委員が選出されました。今後は先に結成されたPTAの実行委員会と学校側、それに同窓会による三者合同の実行委員会を中心に具体案が検討され実施されることになります。

同窓各位には母校発展のためこれまでと同様に変わらぬご支援ご鞭撻をお願い致します。

母校創立七十周年を迎えるにあたって

新制三期　続　隆

母校も平成七年九月に「創立七十周年」を迎えることになりますが、同窓会員にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

私はこの度、学校当局のご依頼により、同窓会総会のご承認のもとに「七十周年記念事業」の同窓会担当役員に就任することになりました。

力不足とは思いますが母校発展のため微力を尽くす所存でございますのでよろしくお願い致します。

さて、「七十周年記念事業」を実施するに当たり今回同窓会、PTA、学校側三者合同の実行委員会を結成することになりましたが、同窓会から

▼八竜支部設立について▲

八竜支部長
旧制十五期　三浦富雄

八竜町特産メロン初出荷の候の七月三日、能代高等学校同窓会八竜支部設立総会が町内の「なんでもや」にて開催されました。当日は農繁期と各種諸行事との重なりにもかかわらず、旧制十二期生を筆頭に十九の期からそれぞれ出席され、会員二十余名が参集しました。それに本部同窓会から伊勢副会長、母校からは小野寺校長、銭谷先生が駆付けてくださり、支部結成の手順や誕生への励ましの言葉をかけて下さいました。おかげさまで議事がスムーズに進行。最後に役員選出では初代会長に三浦富雄（旧十五）副会長には伊藤多喜雄（旧十八）柴田哲雄（新五）伊東満（新六）、顧問には成川甫（旧十二）荒谷要市（旧十三）三浦豊美雄（旧十四）畠山洋一（新七）の各氏を満場一致で選出し、ここに八竜支部の産声を発することが出来ました。

ここで、これまでの同窓会本部等への疎遠をお詫び申し上げると共に、今後より一層のご指導とご協力をお願い申し上げます。

さて、前後いたしましたが設立までの経緯と当面の重点事項についてですが、昨年の甲子園大会出場に伴う募金活動を展開中、本町には三百余の同窓生がおりながらも、同窓生間の交流の機会もなく、又、母校支援活動もバラバラの状況であり是非支部を結成すべしの声が多く寄せられました。これを受けました三浦会長と伊藤副会長は直ちに二十名からなる設立準備委員会を結成し、設立総会に臨みました。

初年度の重点事項としては

一、町内同窓生名簿の作成と若い方を中心に会員の拡大を図る。

一、本部同窓会のもと、母校の内外環境の整備に努める。

一、会員の親睦と情報交換の機会創設

以上の事項を決定しております。

初年度でもあるため親睦会が主体になると思いますが、同窓生の中には各界で活躍されいる方が多数おられますので、今後は会合の初めに各界にわたるミニスピーチを組み入れていきたいと考えます。（事務局　宮田紘孝）

思い出話に花がさく

友来たるあり

旧制十四期　冨波良一

母校創立記念の日、快晴のもと休業中の校舎におじゃました。卒業五十年記念の企画に馳せ参じた同期の者三十八名である。小屋と呼ばれた体操場しか知らない連中には、三つもの体育館などいかにもゼータクとでも言いたげな顔つきに見えた。

樽子山の旧校舎跡地では、さすがに年相応「奉安殿、このあたりで最敬礼したエナー」と声が続いた

「目標、枝のある桜云々」の教練のチャイナのハナシに一同爆笑しながらも、揃って口調をまねできていた。

都市計画が進み区画整理のすんだ街なみにはさまで感慨も湧かないかして、默しがちの一同も総会場の金勇に落ちつくに及んでは、四列になったお膳の向うとこっち、それはもうすさまじいばかりのボリュームで一気にブチまけられる懐旧談に、近況報告をと回したマイクなどふり向きもせず。お酒百本たちどころに消えて二次会いやがうえにも盛り上がった。

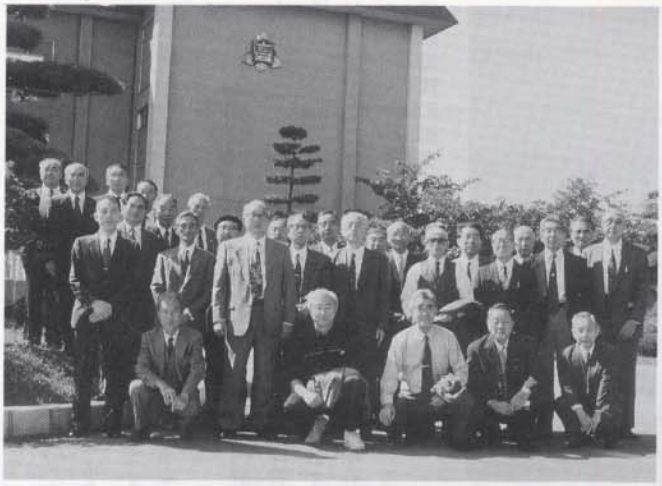
現会員六十一名、物故三十名。予想はるかに超える多くの参会をみて世話役引き受けた地元幹事一同大いに面目をほどこした。

昭和十八年の卒業で翌十九年には旧校舎が火災で全焼し成績原簿等この十四期迄の分が烏有に帰したと聞く。そもそも十里強歩の第一回が我々十四期が一年次の昭和十三年。戦前で修学旅行もゲートル巻き姿ながらも我が十四期でさいご。明治神宮国民錬成大会（現国体）も十八年以降は中絶となったから、なにかにつけてエポックを画する旧制十四期ではあったろう。

参会者の中にはどうしても顔が分らず、まして名前など出ては来ず少々戸惑いもあって、談笑にハナ咲くまでいささかのヒマを要しはしたが、五十年ぶり……むりもないハナシだ。

能代市助役の金田氏のように曼鑠現役中のお方もあるけれど、物故者追悼の法会で念珠くりながらもこのあと十年吾が身がそうなったとしても決して不思議ではない年令だけに、よけい香のケムリが眼にしみたことであった。

またの同期会再会を約して散って行った。



50年振りに高塙の地に集う

同窓生による講演会開く

去る十一月一日、三年生の就職希望者（三十九名）を対象にして同窓生による第一回目の講演を催しました。

本校同窓生の中には政界、マスコミ界、経済界など様々な分野で活躍している方が多数おります。

自分の仕事を通して日頃考えていることや感じていることを、直接生徒にお話し頂くという試みです。

生徒は各界で活躍している先輩の方々のお話を直接聞くことによって、学校では学ぶ事の出来ない多くの事を学ぶことが出来ます。

第一回目の講師は同窓会副会長花下哲夫氏（旧制十二期）にお願いし、好評をはくしました。

第二回目は工藤茂宣氏（医師・新制十二期）、第三回目は塚本真一氏（塚清・新制三十四期）、第四回目は丸岡明氏（能代商工会議所・新制十九期）の各氏が担当することになっています。

三年部の計画では更に二回にわたって同窓生による講演を実施する予定です。

みなさまにも講演依頼の電話がありましたらどうか気軽にお引き受け下さるようお願い致します。

講演する花下哲夫副会長

同期会の報告

新制十期　三浦義輝
（潮来町）

「……高校三年生、僕等はなればなれになろうとも、クラス仲間はいつまでも」という歌があるが、はなればなれになった仲間が三十五年ぶりに集まった。時は平成五年八月二十一日。場所は割烹「金勇」五十嵐先生をお迎えし三十数人が集まった。幹事は能代在住の相沢、北林、藤井の各氏。当日は黒子に徹しサービスに努めた北林君の司会で開会。その後、島田君の指揮で校歌、応援歌の斉唱、藤井君の「お経」のような長い長い挨拶、五十嵐先生のお祝いのお言葉、そして小生の乾杯の音頭で宴が始った。

昭和三十三年三月三日に卒業後久しぶりの顔合わせ。昔の面影を残しつつもお互い変わりはてた？顔と体と頭にとまどいつつ名前を思い出す時間がしばし。記念写真を見てもわかるように先生より貫禄？のある人もチラリ、ホラリ。

あとはアルコールが入るに従い三十五年前に戻り当時の学生時代の思い出に話と杯がはずむ時間が続く。二時間余の楽しかった宴も終りを告げ再会を約束して閉会となった。二次会、三次会の様子は私にはわからない。私は秋田市で次の飲む約束があり、日本海号で能代をあとにした。

私はこの同期会が今年三度目の能代入でした。その後再度九月十二日に能代を訪れた。北林君の家で今回の同期会のスナップ写真を見せてもらい当日の楽しい思い出にひたることができた。又、当日参加できなかった多くの仲間から心のこもったメッセージをいただいた事を紹介しておきます。そして幹事の皆さん本当にありがとうございました。次回を楽しみにしている仲間がいる事を忘れないで下さい。

尚後日談になりますが、十月一日東京同窓会で次の諸君と一緒になった。穴山君、大久保君、古内君、松島君、三浦君、私と六人で二次会で飲んだ。又、十一月六日、東京で能代一中同期会がある。何人かの十期生と会えると期待している。最後に母校の御発展を心からお祈りします。

五十嵐（研）先生を囲んだオールドボーイたち

「校友時報」を探してください!!

縮刷版を刊行

創立70周年記念事業として、「校友時報」の縮刷版が刊行されることとなりました。新聞部OB会員が欠けている号を大分探し出しましたが、残念ながら、左記の号が見つかりません。そこでこの同窓会報を通して全国の同窓会員にご協力を呼びかけることとしました。どうか能高時代の思い出の品々を、もう一度見ていただいて、手元にありましたら一時借用させて下さい。お持ちの方は同窓会事務局にご一報下さい。

〔欠号〕	〔発行年月〕	〔その時の在校生の卒業期〕
第1号	昭和23年か、あるいは	新制1期、2期、3期
第2号	昭和24年4月より	4期
第3号	昭和24年9月の間に	
第4号	発行	
第5号		
第6号		
第8号	昭和24年10月下旬から	新制2期・3期・4期
第9号	11月下旬の間に発行	
第14号	昭和25年2月か3月	新制2期・3期・4期
第24号	昭和26年2月か3月	新制3期・4期・5期
第44号	昭和28年11月か12月	新制6期・7期・8期
第47号	昭和29年4月か5月	新制7期・8期・9期
第50号	昭和29年9月か10月	新制7期・8期・9期
第66号	昭和32年9月から12月の間	新制10期・11期・12期
第69号	昭和33年5月	11期・12期・13期
第72号	昭和33年12月	11期・12期・13期
第73号	昭和34年3月	11期・12期・13期
第76号	昭和34年9月か10月	12期・13期・14期
第80号	昭和35年7月	13期・14期・15期
第81号	昭和35年9月か10月	13期・14期・15期
第87号	昭和37年3月	14期・15期・16期
第100号	昭和40年3月（か又は4月）	17期・18期・19期・20期